

# エンカウンターでジェンダー問題を問う

—「男らしさ」と「女らしさ」を考える—

黄 潔・林 伸一

## 1、はじめに

エンカウンター (encounter) とは、「遭遇」「出会い」の意であり、国分康孝の提唱する構成的グループ・エンカウンター (Structured Group Encounter 以下:SGE) は、リーダーとともにエクササイズ (課題) を行なう集団的なカウンセリングの技法の一つである。エクササイズ的时间・人数・内容を構成する点が特徴で、参加体験型の学習方法の一つと位置づけられる。(林、2011参照)

山口大学人文学部2010年度前期の学部の専門科目「日本語学特殊講義」、外国人留学生対象の共通教育科目「日本語VA」、大学院修士課程「日本語論 I」及び2011年度前期の「日本語VA」で、SGEのエクササイズ「ディスカッション:男らしい・女らしいってなあに?」を4回実施した。エクササイズ終了後、参加者は振り返りシート (別添資料1) の各設問に「よくあてはまる (5点)」~「まったくあてはまらない (1点)」の5段階評価で答え、自由記述欄に感じたことや気づいたことを記入した。

本エクササイズ実施のねらいは「日本語の話す力を向上させる」こと、「制限時間を意識して話すことに慣れる」こと、「簡潔に要約する能力を高める」ことに設定したが、「男らしい」「女らしい」という時勢に敏感な主題が取り上げられたため、参加者からはジェンダー問題に関する記述が多く出された。

本研究では、エクササイズの参加者同士のディスカッションを試み、その振り返りシートにおける自由記述を談話として捉え、その談話分析から、参加者のジェンダー問題に関する価値観及びエンカウンターが取り入れられた授業の実像を明らかにしたい。

外国人留学生に対する日本語の授業や日本の社会的・文化的事象を扱う日本事情の授業においても「男は度胸、女は愛嬌」「男は仕事、女は家庭」というような「男は○○・女は○○」式の成句的な言い回しを取り上げられることがある。その内容がジェンダーの歪みを表す典型例とされる場合がある。

NHK連続テレビ小説『カーネーション』の中にも、次のようなジェンダーの問題表現が多く出てくる。

「男勝りのおてんば娘」「女は、常に男の一步後を歩き、男を引き立てる。それが女の役割です。男と同じ仕事をしようなんて考えてはあかんです」「もっと女子生徒

らしい振る舞いを、おうちのほうでもきちんと教育なさってください」「女はええとこ嫁いって、婿さんによく仕える。それが一番じゃ」「父は一家の長として家族を率い、母は主婦として内にいて父を助け……」（以上、渡辺・豊田、2011より引用）

『カーネーション』の時代は、昭和初期の「嫁しては夫に従え」という時代で、男女平等を目指す男女共同参画社会ではないが、現代においても「男は〇〇・女は〇〇」式の言い回しはなくなっていないし、いつの間にか身につけている社会的性差や固定的でステレオタイプ式的考え方は存在し続けている。

## 2、研究の目的

当初の研究の目的は、制限時間を意識して話し、要約する能力を高めるエクササイズの効果について検証することにあった。しかし、題材として選んだ「男らしい・女らしいってなあに？」というエクササイズがジェンダー問題を扱っていたために、参加者の主要な関心事が「話す力を向上させる」ことより「男らしさ・女らしさ」というテーマの内容の方に焦点化された。そこで本報告では、SGEの枠内でジェンダー問題を問い、「男らしさ」と「女らしさ」などを議論することの是非を検討したい。

## 3、先行研究

大関（1999）は『エンカウンターで学級が変わる・中学校編Part3』（図書文化）の中で「男らしい・女らしいってなあに？」というエクササイズを提案し、「いつの間にか身につけている社会的性差に気づく」ことをねらいとしている。エクササイズの内容は、「個人資質一覧表」（別添資料2）を参考にしながら、「男性にとって必要」「女性にとって必要」「男性にも女性にも大切」なものを自分で考えてみるというものがある。

また、大関（2000）は「互いの良さや個性を認め合い、思いやりの心をもって行動できる生徒の育成」を課題として「人権教育の方法としての構成的グループ・エンカウンター」に取り組んでいる。SGEの実践を通して「自他を大切にし、思いやりの心を育てるための人間関係づくり」が実現できると考え、人権教育の一環としてジェンダー問題へのアプローチを試みている。

福富（2001）は、「性別学的性別に対して、男らしさや女らしさと表現される場合のように社会的（文化的）に規定された性別をジェンダーと呼ぶ」と定義している。また、福富（2001）は、ジェンダー・バイアス（gender bias）についても「社会的に規定されたものであるため、その中には性差別に通じる固定的でステレオタイプ的なものも少なくない。これらジェンダーに含まれる歪みをジェンダー・バイアスという」

と定義を示している。同氏は「日常的行動や無自覚な発言の中にもジェンダー・バイアスが含まれている」と指摘している。バイアス (bias) とは、「先入観」「偏見」「片寄り」「偏り」の意である。

林 (1999) は、「象は強い」「教師は学生より偉い」などの断定的一般論の文章記述の書き換えを試みるSGEのエクササイズを実施し、書き換え例の実際を開示している。「象は強い」は「男は女より強い」と置き換えれば、ジェンダー問題となる。同様に「教師は学生より偉い」も「男は女より偉い」と置き換えれば、ジェンダー問題としての検討課題となる。

また、日本語の日常的な発話の中にも思い込み (ビリーフ) が含まれているのではないかという視点から、林 (2002) は、論理療法と日本語教育の接点に関して考察している。

黄 (2012) は、「話すことに関する構成的グループ・エンカウターの実践～日本人中心の授業と留学生中心の授業との比較研究～」について発表している。

#### 4、研究方法・分析方法

エクササイズ実施の振り返りシートの自由記述欄から得られた内容を談話としてとらえ、グラウンデッド・セオリー (grounded theory) を用いてカテゴリー化した。戈木 (2006) は、グラウンデッド・セオリーを「データに基づいて (grounded) 分析を進め、データから概念を抽出し、概念同士の関係づけによって研究領域に密着した理論を生成しようとする研究方法」としている。

本稿は紙幅の都合上、振り返りシートの5段階評定の量的結果の提示は省略し、参加者の自由記述を各カテゴリーにまとめたものの検討の過程を呈示し、各カテゴリーのデータ数及びカテゴリーの関連付けに絞って質的分析を行う。

また、ジェンダー問題の中に含まれる論理性的の乏しい思い込みをイラショナル・ビリーフ (irrational belief) として検討する。

#### 5、エンカウターの実践

##### 5-1、実施内容

**テーマ** ディスカッション：「男らしい・女らしいってなあに？」

##### **実施日時**

2010年7月6日 (火) 日本語学特殊講義 (前期)      2010年7月 8日 (木) 日本語VA (前期)

2010年7月14日 (水) 日本語論 I (前期)      2011年4月28日 (木) 日本語VA (前期)

実施対象 参加者63名

<表1>参加者の内訳

(単位：人)

	2年	3年	4年	院1年	留学生	社会人	合計
男性	0	2	1	1	4	2	10
女性	13	13	7	0	19	1	53
合計	13	15	8	1	23	3	63

\*学部留学生、大学院生、交換留学生、研究生を、「留学生」として区分。「社会人」は、社会人学生および開放授業参加者を指す。参加者の国別内訳：日本人40名（学生37名、社会人3名）、留学生23名（中国18名、韓国4名、ブラジル1名）。

所要時間 約30分

#### 実施手順

- ① 資料を配る。
- ② エクササイズの目的・ねらいを説明する。
- ③ 二人一組のペアをつくる。
- ④ ワークシート（別添資料2）に書かれている4つの質問について、ペアでお互いに質問したり、ディスカッションしながら記入する。（10分間）。
- ⑤ ペア的一方が、ディスカッションした内容を簡潔に要約して相手に話す。（1分間）
- ⑥ ⑤を役割交代して行う。（1分間）
- ⑦ 二人でシェアリングする。（2分間）
- ⑧ 全体でシェアリングする。
- ⑨ 振り返りシートに記入する。

#### 5-2、参加者の自由記述の分析

エクササイズ「ディスカッション:男らしい・女らしいってなあに？」の振り返りシートの自由記述欄から得られた内容をグラウンデッド・セオリーの手法を用いてカテゴリー化した。

参加者からの自由記述を分析対象とし、一文を基本単位として切片化した後、所属、属性、内容を簡潔に表すラベルをつけ、概念ごとにまとめてカテゴリー化を行う。各カテゴリーを以下の<表2>から<表14>に示す。表中の「番号」欄にある数字はコンピュータでEXCELを用い、データ入力した順番を示すものである。同一人物の記述を分けて入力する場合は、01(1)、01(2)のように（ ）内に連番でつながりを示す。一文しか記述していない場合も02(1)や03(1)のように記号化する。また、データは自

由記述の一文を基本単位とするが、一文で内容が分かりにくい場合は、意味を把握するため複数の文を一枠内に入れた。

なお、表中の参加者の所属と属性に関しては、以下に示す略称を用いた。

[所属の略称] 日文：人文学部日本語学・日本文学コース      中文：人文学部中国語学・中国文学論コース  
 言情：人文学部・言語情報学コース      欧文：人文学部ヨーロッパ言語・文学コース  
 社会学：人文学部社会学コース      人研：人文科学研究科  
 聴講生：特別聴講生      研究生：外国人研究生

[属性の略称] 中：中国      韓：韓国      伯：ブラジル      M1：大学院修士1年      M2：大学院修士2年

### 5-2-1、ディスカッションの主題に関する参加者の反応

振り返りシートから得たディスカッションの主題に関する参加者の自由記述を以下の<表2>「主題に関して積極的・受容的な態度」、<表3>「主題に関して消極的・拒否的な態度」、<表4>「ジェンダーに関する固定観念」、<表5>「男らしさ・女らしさの区別と差別」、<表6-1>「ジェンダー・フリー（日本人の記述）」、<表6-2>「ジェンダー・フリー（留学生の記述）」、<表7>「ジェンダーに関する本音と建前」の各カテゴリーにまとめた。各表の（ ）内のnは切片数を表わす。

<表2> 「主題に関して積極的・受容的な態度」 カテゴリー (n=8)

番号	データ	所属	属性	ラベル
41(2)	今までこのような事を考える機会がなかったので、良かったです。	中文・3年	男・20代	考える機会
02(1)	「男らしさ」「女らしさ」というテーマは改めて考えてみると気づく点が多くあり、面白かったです。	中文・2年	女・10代	気づく点が多く、面白い
18(3)	このテーマについて考えることは日頃ないので、ディスカッションをするのは楽しかった。	言情・2年	女・10代	楽しい
59(1)	身近な話題から、ディスカッションするためのトレーニングができると思った。	社会人	男・60代以上	トレーニングができる
46(1)	身近な話題で、会話が進みやすいです。	人研・M1	女(中)・20代	会話が進みやすい
45(1)	問題はとても面白くて身近な感じがしました。	人研・M1	女(中)・20代	面白くて身近な感じ
53(1)	私は心理学士なので、この授業に使ったテーマはとても楽しかったです。	聴講生	女(伯)・20代	楽しかった
53(2)	個人の資質のことについて話すことは、自分のことを考えはじめるので、とても大事な話だと思います。	聴講生	女(伯)・20代	大事な話

＜表2＞に示した通り、「主題に関して積極的・受容的な態度」が8件得られた。41(2)、02(1)、18(3)は本エクササイズで取り上げた主題について、「考えることは日頃ないので、ディスカッションをするのは楽しかった」というような意見である。59(1)、46(1)、45(1)は本エクササイズのテーマは「身近な話題」だとしている。また、53(1)、53(2)は心理学士の立場から「個人の資質のことについて話すことは、自分のことを考えはじめるので、とても大事な話だ」と述べている。

ディスカッションの主題に参加者が興味と関心を持つことにより、ディスカッションに対する意欲が向上し、積極的に自己主張しようとする姿勢となって表れると思われる。

＜表3＞ 「主題に関して消極的・拒否的な態度」 カテゴリー (n=9)

番号	データ	所属	属性	ラベル
13(1)	「男らしさ・女らしさ」なんて、最近の使用禁止ワードに近いですね。よい風潮ではあるのでしょうか。	日文・3年	男・20代	使用禁止ワード
29(1)	男らしさ、女らしさということについて話すだけで「差別」と言われることがある。	日文・2年	女・10代	話すだけで差別
17(1)	「男らしさ」「女らしさ」にとられるな、男女平等を目指さないと言われて育ってきたためか、案外考えるのが難しかったです。	中文・2年	女・10代	男女平等教育の影響
18(1)	「男らしさ」「女らしさ」が現代では、あまり区別されていないので、それぞれの資質を考えるのは難しいと思った。	言情・2年	女・10代	考えるのは難しい
06(1)	男らしさ・女らしさというのは、現代社会においてディスカッションしにくい内容だと思う。	中文・4年	女・20代	討議しにくい
06(3)	もう少しディスカッションしがいのある題のほうがやりやすい。	中文・4年	女・20代	やりがいに欠ける
27(1)	ディスカッションをするのは楽しいんですけど、主題は今の時代に合わなかった気がします。	聴講生	女(韓)・10代	今の時代に合わない
27(2)	「男らしい、女らしい」っていうのは、現代、ないわけじゃないんですけど、そんなに重視されていないと思うので…	聴講生	女(韓)・10代	重視されていない主題
32(3)	男女の違いはあるが、それほど多くない。	工学部・1年	男(中)・20代	男女の差異が多くない

＜表3＞に示した通り、「主題に関して消極的・拒否的な態度」に関する記述が9件得られた。

13(1)「『男らしさ・女らしさ』なんて、最近の使用禁止ワードに近い」、29(1)「男らしさ、女らしさということについて話すだけで『差別』と言われることがある」と

述べているが、これらは現代社会の「ジェンダー・フリー」という考え方に誤解がある意見である。

2005年8月26日、東京都教育委員は「『男らしさ』や『女らしさ』をすべて否定するような誤った考え方としての『ジェンダー・フリー』という言葉在教育現場で使ってはならない」と命じた(加藤2006参照)。

また、2005年12月、日本政府が決定した「男女共同参画基本計画(第2次)概要」には次のように書かれている。「『ジェンダー・フリー』という用語を使用して、性差を否定したり、男らしさ、女らしさや男女の区別をなくして人間の中性化を目指すこと、また、家族やひな祭り等の伝統文化を否定することは、国民が求める男女共同参画社会とは異なる」。

確かに、「らしさ」という言葉に「～すべき」という意味が含まれる場合がある。上記17(1)、18(1)、27(2)は「男らしさ・女らしさ」という言葉に「男(女)は～すべき」という規範の意味を読み取ったコメントだと思われる。加藤(2006)は「『らしさ』という言葉に奇妙な力が宿っているようです。それは『自然』とも少し似ているのですが、性役割規範や性差別を正当化するための切り札として威力を発揮する」と指摘している。「男らしさ・女らしさ」に社会規範の意味があることを否定できないが、それを考えたり語ったりするのはいけないとは限らない。

加藤(2006)は「厳密に言えば、この世界からとり除かれる要素が一つだけあると言うべきかもしれません。それはすなわち、…個々人がそれぞれの生き方を選んだ結果」として残る男らしさや女らしさではなく、…<規範>としての男らしさや女らしさであり、またそのような規範への欲望です」と述べている。自分が考える「男らしさ・女らしさ」、自分の身につけたい「男らしさ・女らしさ」を他人に押し付けなければ、それを考えること、討議することは、別に悪いことではないと考えられる。

福富(2001)は、「ジェンダーそれ自体が恣意的な歪曲から免れないとし、ジェンダーレス社会をめざそうとする動きもある。この場合は『ジェンダーというバイアス』と考えられる」としている。

13(1)の「『男らしさ・女らしさ』なんて、最近の使用禁止ワードに近い」という見方や、29(1)の「男らしさ、女らしさということについて話すだけで『差別』と言われる」という風潮はジェンダーというバイアスであり、ジェンダー問題の中に含まれるイラショナル・ビリーフ(irrational belief)である。ジェンダー問題を大いに議論してこそジェンダーに含まれる歪みを是正できるのであって、男らしさ、女らしさについて話すだけで「差別」とされるのでは「差別」の部分に蓋をする「言葉狩り」になってしまう。

<表4> 「ジェンダーに関する固定観念」 カテゴリー

(n=11)

番号	データ	所属	属性	ラベル
23(1)	1年の時、ジェンダーの授業をとって、この「男らしさ・女らしさ」について学びました。数十年前の日本人には「男だから泣いちゃダメ」とか「女だから行儀よくしなさい」などのイメージが根づいていて、それぞれ男らしさや女らしさという枠にとらわれていた人が多かったのではないかと思います。	日文・2年	女・10代	男だから泣いちゃダメ、女だから行儀よくしなさい
23(2)	今は比較的「男だから〇〇」という感覚はあまりないけれど、個人が男=強い、女=弱いのような先入観をもっているのは固定観念が今もまだ根底にあるということなのだと思います。	日文・2年	女・10代	男=強い、女=弱い
05(1)	男らしさ・女らしさの概念は政治的なものだと私は考えています。周囲の眼によって概念が育成され、いつしか一人歩きしてしまっていると思う。	社会人	男・60代以上	政治的な概念
12(2)	最近は草食系男子とか言われて、男女の性質的境目がなくなりつつあるけど、改めて「男らしさ」「女らしさ」と言われると、やはりまだ、固定観念は消えないんだと思った。	言情・2年	女・10代	草食系男子・固定観念
29(2)	「男のくせに」「女のくせに」という押し付けが今の時代見直されつつあると思う。ただ今なおこういうイメージを持っているということは意識の根底に残りつつ口にしないようにしているだけなのかもしれない。	日文・2年	女・10代	男のくせに女のくせに
22(1)	「女は愛嬌、男は度胸」というような言葉があるけど、そのような昔からの女の人や男の人に対する固定観念が影響していると思った。	日文・3年	女・20代	女は愛嬌、男は度胸
15(1)	身体的な面（能力）で、女性が男性に勝つことは、めったに無い（ほとんど無い）ので、女性は、思いやりや優しさといった内面を磨くしかないのかなと思いました。	日文・4年	女・20代	女性：思いやり、優しさ
15(2)	女性がどんなに努力しても、男性のような肉体になることは出来ないけれど、男性は内面も磨くことが出来るので、両方高めることが出来るのはうらやましいなと思いました。	日文・4年	女・20代	男性がうらやましい
07(1)	「男らしさ」「女らしさ」は性格面ではあまりないけど、身体的な面で、私は違いがあると思っていましたが、身体的な面も周囲の環境、社会によって「筋肉をつけよう」「やせよう」などつくられたのではないかとわれ、なるほどと思いました。	社会学・2年	女・20代	社会的に作られた男・女らしさ

13(2)	私は男性・女性に強さ・弱さを求めているみたいです。力関係というわけではなく、ある意味での弱さをもっている女性を、男性が護るという構図が理想です。女性の強さを否定しているわけではありません。	日文・3年	男・20代	男性→強さ 女性→弱さ 男性が護る
36(1)	このエクササイズについて、やっぱり男の人は理性的であり、女の人は感情的である。	聴講生	女（中） ・20代	男は理性的 女は感情的

〈表4〉に示した通り、「ジェンダーに関する固定観念」に関する記述が11件得られた。「ジェンダー」という語は時代や学者によって解釈が異なるが、江原ら（2008）は「ジェンダー」を「明確な根拠がないにもかかわらず男女間には能力や適性に差があると考えるような思い込みや偏見」と定義している。

現代社会では男女平等が謳われ、様々な男女共同参画社会実現のための政策がとられているが、〈表4〉の記述をみると、伝統的なジェンダーに関する固定観念がまだ社会の底流にあることが分かる。

その中で、15(1)「身体的な面(能力)で、女性が男性に勝つことは、めったに無い(ほとんど無い)」、15(2)「女性がどんなに努力しても、男性のような肉体になることは出来ない」という男女の身体的な性差に関する記述がみられる。この点について、江原ら（2008）は「運動能力や体力の性差はある程度存在すると考えるのが妥当であるが、訓練によって変化する場合も多く、現在存在すると考えられている性差が不変なのかどうかに関しては注意が必要である」と指摘している。

上記15(2)は、男性の肉体的な強さを認めたくて「男性は内面も磨くことが出来るので、両方高めることが出来るのはうらやましい」とする20代女性の見方である。個人の見解というだけでなく、たばこのLARKの次のようなキャッチ・コピーの中にも男性の生き方へのメッセージが込められている。

「かつて、男らしさとは、一人ですべてを成し遂げる強さだった。時は流れ、世の中は変化し、男たちも変化した。男らしさとは、今も強さだけど、その強さはやさしさに似ている。一人ではなく、家族や友人、恋人との絆の中にある。大切な誰かのために、日々、働く男たち。男たちにはそれぞれの物語があり、その中で、それぞれが主役である」（『週刊文春』広告ページより）。

このコピーの中にも「男＝強い」「男性が護る」「男が主役」とのメッセージが含まれている。

上記07(1)は、「社会によって『筋肉をつけよう』『やせよう』などつくられた」男らしさと女らしさについて言及している。社会によってつくられたというより商業主義によってつくられたと言った方が適切かもしれない。「ポッコリお腹に巻くだけ！

カントンに腹筋200回相当！」(『週刊ポスト』 広告ページより)などという腹筋ベルトの宣伝が出ている。その一方で、藤井 (2011) の指摘を待つまでもないが、女性雑誌は毎回のようダイエツトを特集している。

また36(1)の「男の人は理性的であり、女の人は感情的である」などの性役割に関する記述が見られる。江原ら (2008) は性役割を「性別を理由に割りふられた一連の性格と態度と行為の類型」としている。

上記23(2)が、今は比較的に「男だから〇〇」という感覚はあまりないけれど、「個人が男＝強い、女＝弱いのような先入観をもっているのは固定概念が今もまだ根底にあるということなのだ」と指摘している。それは個人的な先入観というより、「男は、仕事で、強くなる」(自重堂のワークウエアの宣伝)のようなキャッチ・コピーなどが巷にあふれているために気づかぬうちに「男＝仕事」「男＝強い」という固定観念が植え付けられているのであろう。

上記12(2)が「草食系男子」という言葉をあげて「男女の性質的境目がなくなりつつある」としているが、「草食系男子」が流行語になったのは、「男＝強い」「男が主役」という固定観念を崩す意外性とインパクトを持っていたからであらう。ちなみに2009年の「ユーキャン新語・流行語大賞」トップテンに「草食男子」が選ばれている。

「性差」と「性役割」は「男女平等」観念に関わる二つの要素である。「性差」「性役割」「男女平等」について、加藤(2006)は次のように指摘している。

「男女平等の一つの解釈は、伝統的に『性別特性(役割)論<sup>(1)</sup>』あるいは『差異派平等論<sup>(2)</sup>』などと呼ばれてきたもので、性差を非常に高く見積もると同時に、性役割の必要を強調するような考え方です。…ここから見た性別特性役割論にはいくつかの大きな欠陥があり…あまりにも男女の違いを強調しすぎるために、平等という概念が空中分解してしまう」。

<表5> 「男らしさ・女らしさの区別と差別」 カテゴリー (n=12)

番号	データ	所属	属性	ラベル
29(3)	性差を「区別」とするか「差別」とするかで少し考えてみたいと思う。	日文・2年	女・10代	性差は区別か差別か
14(2)	他の方の意見で何度も出たように、男らしさ、女らしさにははっきりした境界線がないように思います。	欧文・3年	女・20代	境界線が明確ではない
07(2)	実際、ジェンダーのない今、細い男性が増えたとも思いました。	社会学・2年	女・20代	細い男性の増加
03(1)	男らしさは力強いイメージから色々思いつきましたが、女らしさはなかなかしっくりくるものがなくて難しかったです。	日文・3年	女・20代	男らしさが考え易い

14(3)	しかし、どちらかというとならしさの方が女らしさより考えやすかったです。	欧文・3年	女・20代	男らしさが考え易い
28(1)	イメージはペアの人とほとんど同じだったんですが、「男らしい」「女らしい」のイメージって、自分の理想が少なからず入るのではないかなと思います。	欧文・2年	女・10代	自分が求める男・女らしさ
11(3)	内面での違いなどで分けづらくなっているの、見た目による部分が大きいと思った。	中文・2年	女・10代	見た目が異なる
04(1)	男子が考える男らしさ・女らしさと、女子が考える男らしさ・女子らしさは違うのではないかと考えました。	日文・3年	女・20代	男女の考え方の相違
36(2)	単独的に(→単独に)、男性とか女性とかの資質が多いが、基本的は両方にとっての資質がそんな多くないのが(→に)気づいた。	聴講生	女(中)・20代	男女別の資質が多い
50(1)	以前は「男らしさ」と「女らしさ」とは何の違うところがあるか、全然考えたことがないです。	聴講生	女(中)・20代	考えたことがない
58(2)	国と国、それに一つ地域と一つ地域では(→地域によっては)、男子と女子の性格が違って、男子に対して女子の考えと女子に対して男子の考えも違います。	聴講生	男(中)・20代	国・地域・性別の相違
41(1)	「男らしさ」「女らしさ」は区別できるけど、男女の資質は区別する必要がないと感じました。	中文・3年	男・20代	資質の区別必要なし

<表5>に示した通り、「男らしさ・女らしさの区別と差別」に関する意見が12件得られた。前述したように、本稿で使用する「ジェンダー」という語は、社会的(文化的)に規定された性別として把握する。規範としての男らしさ・女らしさ、すなわち他人に押し付けようとする男らしさ・女らしさに関する観念は、ジェンダーに関する固定観念だと思われる。よって、上記の記述には男らしさ・女らしさ、男女の資質を別々に考える意見があるが、「ジェンダーに関する固定観念」と分けてまとめる。

上記29(3)は「性差を『区別』ととるか『差別』ととるかで少し考えてみたい」と述べている。加藤(2006)は「差別とは不当な区別である。…性差別を正当化したがる人たちがよく持ち出す決まり文句に『これは差別ではなく区別だ』というのがあります」と指摘している。男女の性差という言い方はもともと客観的なものであり、マイナス・イメージはないが、性差別をする人に言い訳として使われることがある。男女の性差の本質は、区別だと思われる。また、加藤(2006)は「性差別をなくすために性差もないことにしないといけないう発想が誤解であることもわかるはずなんです、どうもなかなかそうならないのが現状です」と述べている。性差別をする側は、性差を不当な理由・根拠として用いることが多いので、人々には性差に対する誤

解がなかなかなくならないのだと考えられる。

また、福富(1985)は「女の子として男の子としてふさわしい行動や言葉遣いがあるのではなからうか。特に、日本語には男言葉と女言葉の違いがある。文化的な特徴であり、むやみに否定することもない」と述べている。男女平等の社会では、男女平等を実現するために、男女の差を完全に無視することではなく、男女とも異性の個性を認め、尊重することが最も重要なことだと思われる。

男女の区別をなくすべきかどうかについて、加藤(2006)は「むしろ私は、ジェンダー・フリーの理念を持って教育に関わる人は、男女のしかるべき区別を蔑ろにしている学校の現状を子供の人権尊重という観点から批判してきたという、正反対の印象さえ持っています」と述べている。男女の区別をしてはいけないという教育が実行されつつあるとしたら、個々人の自己意識が発揮できなくなり、正しくない社会通念にはまる危険性があると考えられる。

また、上記58(2)の国や地域によっては、「男子と女子の性格が違って、男子に対して女子の考えと女子に対して男子の考えも違います」という記述があった。こういう文化的な差異について、福富(1985)は、米国の文化人類学者で、南太平洋各地での現地調査を通して、人格形成と文化との関連を研究したマーガレット・ミード(Margaret Mead: 1901—1978)の調査を次のように紹介している。

「南太平洋諸島に住んでいるチャンブリ族という部族では、われわれの文化の男女の特徴と反対の特性を示しているという。この部族では、男性が温和的な性格特性をもち、女性が勇敢で行動的であるという。…子供の頃ママゴト遊びや人形遊びをするのは女の子よりも男の子に多いという」。

つまり、マーガレット・ミードは男女の役割規定が文化によってなされることを示したわけで、国や地域、文化や習慣などによって、男女の役割、性格や特徴などが異なることは確かだと思われる。

男女の性差、性役割を強調しすぎると問題があるが、男女は完全に同じだという説に基づくジェンダーレス社会をめざそうとする考えにも無理がある。

<表6-1> 「ジェンダー・フリー(日本人の記述)」 カテゴリー (n=11)

番号	データ	所属	属性	ラベル
01(2)	しかし、そのような固定観念での「男らしさ」「女らしさ」よりも、(3)のようなどちらにも共通する、人間として大切な素質の方が重要だと思います。	日文・2年	女・20代	人間として大切な素質が重要

06(2)	全体のシェアリングにおいても、伝統的概念→今は性別に関わらず、一人の人間として大切な資質があるという結論にとどまっていたように思う。	中文・4年	女・20代	人間として大切な素質がある
08(1)	男らしさ・女らしさという概念は、昭和ぐらいまでで(1900年代)、今はらしさにとらわれず、人間としての資質が問題になる場合が多いことに気づかされた。	社会人	女・60代以上	人間として大切な素質が問題になる
28(2)	両方にとって大切な資質を考える方が、性別に考えるよりも大切ではないかと思いました。	欧文・2年	女・10代	性別を問わず
35(2)	また、大切な資質に関しては、どちらか一方の性別について重要なものというより、どちらにも重要である資質のほうが多いと思う。	中文・4年	女・20代	男女にも重要な資質
05(2)	男らしさに惑わず、自分らしさを心懸けるべきだ、と考えます。	社会人	男・60代以上	自分らしさが重要
03(2)	現在では昔よりも男性らしさ、女性らしさをあまり問われなくなってきているし、人によって価値観が違うので、一概には言えないと思いました。	日文・3年	女・20代	個々人価値観が違う
11(1)	友達と恋愛の話をしていて好きなタイプの話になると色々なものが出てくるけれど、実際にさまざまな特徴を男らしいとか、女らしいとか分けるのは難しいと思った。	中文・2年	女・10代	個々人が違う
11(2)	少し前の日本までなら、男女の役割も固まっていたし、異性に好まれる姿も古典文学にあるようにははっきりしていたけれど、今の時代ではそのような区別もなくなって様々な生き方をしている人がいるので、特徴を分けにくいと感じた。	中文・2年	女・10代	個々人が違う、特徴を分けにくい
13(3)	両性とも、異性を尊重することが最も大切だと思います。	日文・3年	男・20代	異性を尊重
19(1)	小、中、高校生の時、学校では男女平等という考え方の教育を受けてきたように思います。	中文・2年	女・10代	男女平等の教育

<表6-1>に示した通り、日本人から「ジェンダー・フリー」に関する記述が11件得られた。

江原ら(2008)は「ジェンダーの概念からは、性別に対する思い込みや偏見から自由になろうという主張を意味する、『ジェンダー・フリー』という言葉が作られている」と述べている。

上記のほとんどは、性別を問わず、一人の人間としての資質が重要、男女にも重要な資質の方が多い、自分らしさが重要、個々人が違う、異性を尊重することが大切だ

というようなジェンダー・フリーに関する意見である。このような価値観は男女平等思想、女性解放思想、すなわちフェミニズムが世間に広まっていく証だと思われる。

加藤（2006）は『男女平等』とは、『男と女の平等』ではなく、『男で（も）ある個人と女で（も）ある個人との平等』である。…性別特性役割論がこの世界から個人差および個人の自由という重大な価値を引き算してしまうのに対して、個人単位の平等論は何ものも失いません」と述べている。フェミニズムが広がっている現代は、「男は外、女は内」という伝統的な性別役割論がなくなり、女性でも社会に進出し、男性でも家事や子育てをする、人による価値が論じられる時代になったと思われる。

上記08(1)の「男らしさ・女らしさというが概念は、昭和ぐらいままで（1900年代）、今はらしさにとらわれず、人間としての資質が問題になる場合が多いことに気づかされた」とする60代以上の女性の記述があった。本稿の冒頭に示した昭和初期の時代を背景にしたNHK連続テレビ小説『カーネーション』は、世界的なファッションデザイナーのコシノヒロコ・ジュンコ・ミチコを育て上げた母親の小篠綾子をモデルにしていると言われる。テレビ小説はフィクションであるが、時代考証はよくできていると言われている。

上記の11(2)の「少し前の日本までなら、男女の役割も固まっていたし、異性に好まれる姿も古典文学にあるようにはっきりしていたけれど、今の時代ではそのような区別もなくなって様々な生き方をしている人がいるので、特徴を分けにくい」との10代の女性の感想にもあるように、時代が変わってジェンダー・フリーになってきていることを裏付けている。「異性に好まれる姿も古典文学にあるようにはっきりしていた」との記述は、文学作品を読む上でも「男らしさ・女らしさ」の概念を避けては通れないことを意味しており、「男らしさ・女らしさ」の概念を論ずること自体をタブー視する考え方には問題がある。

<表6-2> 「ジェンダー・フリー(留学生の記述)」 カテゴリー (n=5)

番号	データ	所属	属性	ラベル
48(3)	確かに、時代がかわって、現代社会において、男は強い面のほか、女のような優しさや思いやりが必要で、女が優しさのほか、男のような独立、個性的という資質が求められるようになりました。	研究生	女(中)・20代	性別役割を乗り越える時代
52(1)	中国の女の子はだんだん強くなってきて、かたいイメージがします。多分中国だけではなく、世界の女性たちは独立を求めています。女の子は独立したければ、強くならなければならぬからです。	聴講生	女(中)・20代	女性は独立を求める

55(2)	内容については、やっぱり時代が変わりました。女性の考え方も変わりました。	聴講生	女(中)・20代	女性の考え方が変わった
55(3)	女らしさの中で、意志が強いとか独立とか、そういうような言葉を用いました。それは私とB(52番)さんは同じ国から来たので、考え方は大部似ているかもしれません。	聴講生	女(中)・20代	女→意志が強い・独立
48(4)	また、男女とも、あるいは人間としては、誠実で、まじめも大切だと思います。わざと区別しなくてもよいかなと思われるんです。	研究生	女(中)・20代	人間として大切な素質

＜表6-2＞に示した通り、留学生からの「ジェンダー・フリー」に関する記述が5件得られた。5件とも中国人留学生の記述であった。＜表6-1＞に比べて、＜表6-2＞に女性が独立を求めているというような記述が目立った。＜表6-2＞のデータの中に「独立」という語が4回使われている。日本語の文脈では「自立」に相当する。

中国では1970年代から「一人っ子政策」が始まり、女性でも男性と同じく家庭を養う役割があり、特に現代の中国社会では「共働き」ということがごく普通の状況にあるので、日本より中国の女性の方が精神的にも経済的にも独立（自立）を求めていると考えられる。

＜表7＞ 「ジェンダーに関する本音と建前」 カテゴリー (n=8)

番号	データ	所属	属性	ラベル
57(1)	「女らしさ」「男らしさ」は簡単なようで難しいテーマというより、時世に敏感なテーマなので難しかったです。でも、個人の考えがよく現れるテーマでもあると思います。なぜなら、この狭い空間だからです。	日文・3年	女・20代	主題と場所 個人の考え
57(2)	もっと広い空間なら、社会的な自分として男女差別はいけないという意見しか出せなくなってしまうでしょうが、狭い空間なら少しくらいは本音が出せると考えています。	日文・3年	女・20代	主題と場所 と本音
49(1)	男らしさと女らしさに対して、ペアと大体同じ意見だが、男性、女性の両方にとって大切な資質の意見について、人々によって、考えが違う場合がある。そこで、自己主義を持つべきかどうか、時代とともに変わっていくと思う。	聴講生	女(中)・20代	自己主義と時代
56(1)	個人的には古い価値観も嫌いではないので、「男性は/女性はこうあるべき」と堂々と主張できないのは少し辛いことだなあ、と。とは言えこの意見も、窮屈に感じない男性サイドのものなのではないでしょうか。	日文・4年	男・20代	「～べき」と主張したい考え

35(1)	男らしさ、女らしさというように区別して考えることはよくないという考え方が主流になってきているが、イメージとしての男性・女性の資質というののははっきりとしていることに気づいた。	中文・4年	女・20代	建前と本音
19(2)	なので、「男らしさ」「女らしさ」に縛られすぎるのは良くない印象を受けてしまうのですが、男女それぞれの個性が別々に有ることも重要ではないか、と考えました。	中文・2年	女・10代	建前と本音
33(2)	また「男らしさ」「女らしさ」は区別すべきではないという教育をうけていても無意識に区別してしまっており、日本でも韓国でも「～らしさ」のイメージはあまり変わらないと思いました。	中文・4年	女・20代	無意識に男女を区別
40(1)	男、女を区別する必要はないと思いますが、今も無意識に区別していました。	聴講生	女(韓)・20代	無意識に男女を区別

〈表7〉に示した通り、「ジェンダーに関する本音と建前」 カテゴリーが8件得られた。

上記57(1)は、「女らしさ」「男らしさ」は簡単なようで難しいテーマで「個人の考えがよく現れるテーマでもあると思います。なぜなら、この狭い空間だから」と述べている。「個人の考えがよく現れるテーマ」というのは、個人の本音が出せるテーマという意味であろうが、その条件は「この狭い空間」に限られることになる。つまり、「女らしさ」「男らしさ」を論ずることは、内容、時間、場所、参加メンバーなどを構成するSGEのエクササイズにふさわしいテーマであったと言えるだろう。

同一人物である57(2)は、「もっと広い空間なら、社会的な自分として男女差別はいけないという意見しか出せなくなってしまうでしょうが、狭い空間なら少しくらいは本音が出せる」との考えを表明している。「もっと広い空間なら、社会的な自分として男女差別はいけないという」タテマエしか出せないが、構成された「狭い空間なら少しくらいは本音が出せる」ということで、本音とホンネを交流するSGEのねらいに合致する点である。「少しくらいは本音が出せる」段階から「大いに本音が出せる」段階へ進む可能性もある。タテマエとホンネを使い分ける日本文化についても中国や韓国の留学生と共に考えさせられる場でもある。

また、上記49(1)は「女らしさ・男らしさ」や「男性・女性の資質」に関する意見は、場所や時代によっても違い、「人々によって、考えが違う場合がある」と指摘している。集団討議の場合、個々人の考えの違いを超えて統一見解を出さなければいけないとする思い込み（ビリーフ）が存在する場合があるが、SGEというグループ体験では、本音が出せるかどうかの問題で、個々人の考えが違って当たり前とする個人主義を基

本としている。すなわち、自分が語りたことがあっても語れないのは、その時代に、そういう社会規範があって語ってはいけない、あるいはホンネを出すことが許されない雰囲気があることが問題とされる。そういう個人の意見を出してはいけないとする雰囲気や社会規範は、人々の主張や個性を減らすことにつながる恐れがあるであろう。

上記35(1)は「男らしさ、女らしさというように区別して考えることはよくないという考え方が主流になってきているが」と通念となっているタテマエに言及した上で、「イメージとしての男性・女性の資質というのははっきりとしていることに気づいた」とエクササイズを通しての気づき（ホンネ）を述べている。

同様に上記19(2)は、「『男らしさ』『女らしさ』に縛られすぎるのは良くない印象を受けてしまうのですが」と前件ではタテマエを示し、後件では「男女それぞれの個性が別々に有ることも重要ではないか」とホンネを述べている。

さらに上記33(2)も「『男らしさ』『女らしさ』は区別すべきではないという教育をうけていても」と教育上のタテマエを示し、後件では「無意識に区別してしまっており、日本でも韓国でも『～らしさ』のイメージはあまり変わらない」とエクササイズを通しての気づき（ホンネ）を述べている。「日本でも韓国でも『～らしさ』のイメージはあまり変わらない」との気づきは、『～らしさ』のイメージには日本と韓国の文化と習慣の違いにもかかわらず、共通性があることを示している。33(2)とペアを組んだ韓国の留学生も40(1)も同様の記述をしている。

上記35(1)、19(2)、33(2)、40(1)に共通している談話の構造としては、『男らしさ』『女らしさ』は区別すべきではないという前件にタテマエを述べ、後件では「男女それぞれの個性が別々に有る」というホンネや気づきを述べている点である。

## 5-2-2、ディスカッションの配布資料に関する意見

振り返りシートの記述から得たディスカッションに使用した資料(別添資料2参照)に関する意見を次の<表8>にまとめて示す。

本エクササイズは『エンカウンターで学級が変わる・中学校編Part3』の「男らしい・女らしいってなあに？」(大関 1999)というエクササイズの手順及び配布資料の形式にアレンジを加えて実施したものである。

配布資料には「(1)私が考える『男らしさ』『女らしさ』とは」「(2)男性・女性にとって、それぞれ大切な資質は何だろうか」「(3)男性・女性両方にとって大切な資質は何だろうか」「(4) (1)～(3)の回答を比べて、違っているところ、似ているところはどんなところであるか?また、(1)～(3)を比較して、気づいたことはどんなことであるか」という4つの質問が書かれている。この4つの質問について、参加者同士がディスカッ

ションを行なった。

<表8> 「ディスカッションの配布資料に関する意見」 カテゴリー (n=9)

番号	データ	所属	属性	ラベル
20(2)	(1)と(2)の比較だけでなら「男らしさ」「女らしさ」と「男性にとって大切な資質」「女性にとって大切な資質」と男女での部分に注目して比較がし易かったかもしれません。	日文・3年	女・20代	項目(1)(2)だけの方がいい
20(3)	「(1)(2)(3)の比較」と範囲が広がったので、分かりづらさが生まれたのかなと思いました。	日文・3年	女・20代	範囲広く、分かりづらい
22(2)	エクササイズ自体について、(4)の質問が少し分かりづらかった。(2)(3)の「大切な資質」というのも、よく分からない表現だ。	日文・3年	女・20代	分かりづらさがある
28(3)	あと、個人的に(4)の質問がよく分かりませんでした。	欧文・2年	女・10代	分かりづらい
20(1)	(4)の質問が分かりづらかったです。	日文・3年	女・20代	分かりづらい
31(2)	また、質問(1)と(2)がほぼ同じ意味だと思った。	言情・3年	女・20代	質問の類似性
44(1)	Wさんも指摘されていましたが、確かに「資質一覧表」はいい面、悪い面の両方を併せ持っているように感じられました。	人研・M1	男・20代	資質一覧表
14(1)	「個人の資質一覧表」を見たとき、全てが男の人にも女の人にも必要なことのように思えました。	欧文・3年	女・20代	資質一覧表
18(2)	両性に大切な資質で考えると、性格一欄のほとんどの項目があてはまってしまうように思えた。	言情・2年	女・10代	資質一覧表

上記の記述の中にディスカッションの配布資料の質問(4)が分かりづらいという意見が多く見られた。

大関(1999)は本エクササイズのねらいについて、「普段の生活の中で、知らず知らずのうちに身につけているジェンダー(社会的性差)について気づく。男性にとっても女性にとっても、大切な資質は同じであることに気づかせたい」と述べている。質問(4)にねらいの意図が込められていると思われる。

44(1)は配布資料に書かれている「資質一覧表」は「いい面、悪い面の両方を併せ持っている」と述べている。「資質一覧表」には資質を表す語が提示されていて、参加者の話題を広げることができる一方、話題を限定する可能性もあると考えられる。上記の14(1)、18(2)は「資質一覧表」に依存してディスカッションを実施した結果出てきた意見である。

また、「資質一覧表」に書かれている40語を佐々木瑞枝著『日本語ジェンダー辞典』（東京堂出版）で調べた結果、「美しい」という語しか見当たらなかった。大関（1999）の「資質一覧表」には、特に偏りは見られず、14(1)が述べているようにほとんど男にも女にも大切な資質を表す語があげられていると思われる。

### 5-2-3、エクササイズ全体への肯定評価

振り返りシートから得たエクササイズ全体への肯定評価に関する自由記述を以下の〈表9〉にまとめる。

〈表9〉「エクササイズ全体への肯定評価」 カテゴリー (n=8)

番号	データ	所属	属性	ラベル
37(1)	確かに、男女のペアでエクササイズをする方が、有効的であるように思いましたが、日本人と留学生でペアをすることで互いの国の文化を話の中に反映させることもできてエクササイズとしては面白かったです。	日文・2年	女・20代	異文化交流ができ、面白い
37(2)	また、相手の方が「男性に求めること」を聞いて参考になりました。	日文・2年	女・20代	参考になった
58(3)	しかし、違う背景の学生とその話題をめぐって、話し合っ、とても楽しかったと思います。大変勉強になりました。	聴講生	男(中)・20代	楽しくて勉強になる
39(2)	エクササイズは楽しかった。	聴講生	女(韓)・10代	楽しい
48(1)	今日の授業が楽しかったです。	研究生	女(中)・20代	楽しい
47(2)	お互いにたまに言葉が通じない場合もありましたが、それなりに有益な時間を過ごしました。	聴講生	男(韓)・20代	有益な時間
53(3)	それとも新しいことばがあって、勉強になりました。	聴講生	女(伯)・20代	勉強になる
50(3)	それに、今日の討論を通して、たくさんの形容詞も勉強できました。私に役に立ちます。	聴講生	女(中)・20代	勉強ができ、役立つ

〈表9〉に示した通り、「エクササイズ全体への肯定評価」が8件得られた。39(2)、48(1)は本エクササイズが楽しいと述べている。授業の雰囲気をもくし、参加者の気分を楽しくさせたら、参加者の参加意欲を向上させることができるとと思われる。37(1)、58(3)、47(2)の記述から、異文化交流ができた参加者の姿が窺える。参加者に日本人も外国人留学生もいるので、できるだけ日本人と留学生のペアを作ってエクササイズを行った。日本人と留学生のペアで、異なる文化的背景をもとにコミュニケーションが行われ、お互いの理解が深まったと思われる。また、53(3)、50(3)は本エク

ササイズを通して、新しい言葉の勉強ができるという外国人留学生の記述である。本エクササイズをもとに、実際の会話への発展ができれば、外国語としての日本語の学習に有効であると言える。

#### 5-2-4、エクササイズへのアドバイス・意見

振り返りシートから得たエクササイズへのアドバイス・意見を以下の<表10>にまとめる。

<表10> 「エクササイズへのアドバイス・意見」 カテゴリー (n=8)

番号	データ	所属	属性	ラベル
06(4)	また、ディスカッションし合った人同士で、内容を要約しあう意図がよくわからない。お互い話し合った仲なので、伝えたいことは相手も知っているし。	中文・4年	女・20代	同じペアで要約しないほうがいい
12(1)	ペアでディスカッションをしながらワークシートに記入するというのは、次の要約の段階で2人とも同じようなことを言うことになるので、前後のペアで話した方がよかったですのではないのでしょうか。	言情・2年	女・10代	同じペアで要約しないほうがいい
25(1)	学部や性別、年代をかえてディスカッションをしたらまた違った答えがでるのではないかと思います。	日文・3年	女・20代	メンバーによって違う
25(2)	ペアを男女にした方がお互いの思いが聞けていいと思います。	日文・3年	女・20代	男女ペアの方がいい
09(2)	男女のペアでエクササイズを行えばもっと色々な意見が出てくると思った。	日文・4年	女・20代	男女ペアの方がいい
30(1)	きちり同じ人数ではないので、男と女のペアを作るのは難しいと思いますが、なるべく男と女のペアでやったほうが、いいディスカッションになるのではないかと思います。	日文・2年	女・10代	男女ペアの方がいい
34(2)	先ある人の話した通り、今回のエクササイズは男と女の二人のペアになって、行うほうがいいと思います。	聴講生	女(中)・20代	男女ペアの方がいい
43(2)	もしテーマだけ出されたら、いっぱい思いつくだろうと思いました。	人研・M1	女(中)・20代	テーマだけでいい

<表10>に示した通り、「エクササイズへのアドバイス・意見」が8件得られた。12(1)は「要約の段階で2人とも同じようなことを言うことになるので、前後のペアで話した方がよかったです」と述べている。本エクササイズにはペアで10分間ディスカッションした内容を1分にまとめるという要約の項目がある。12(1)の述べている要約項目を

前後のペアで行うことによって、参加者は他のペアの話した結果を得ることができると思われる。06(4)は「ディスカッションし合った人同士で、内容を要約しあう意図がよくわからない」という意見を述べている。ディスカッションし合った人同士は要約しようとする情報を共有しているので、12(1)の述べている通り、ペアを変えて要約項目を伝える課題を行った方が新たな気づきも得られると思われる。

25(2)、09(2)、30(1)、34(2)はディスカッションのペアを男女ペアにした方がいいということを述べている。本エクササイズの内容は「男らしい・女らしいってなあに？」であるので、男女ペアにしたほうが異なる視点からのディスカッションになると思われるが、本エクササイズの男性参加者の比率は女性参加者の五分の一しかなかったため、全体を男女ペアにするのに無理があった。だが、本エクササイズでは、できるかぎりペア同士を男女別、国別にする工夫がなされた。

また、43(2)は「テーマだけ出されたら、いっぱい思いつく」という意見を述べている。本エクササイズではディスカッションのテーマの他、テーマに関する4つの質問も決められている。SGEの「構成的」という要素は枠を与えることを意味している。本エクササイズは時間、グループの人数以外に、ディスカッションのテーマと内容にも枠をつけた。

枠を与える理由について、別所(2004)は「①参加しやすいエクササイズから始め、メンバーの心的外傷を予防する。②ワークショップの始めはエクササイズの時間を短めにし、のれない人に配慮する(中略)⑤SGEを効率的かつ効果的に進める」と述べている。エクササイズの実践の際には、参加者の話す力によって、質問などが決められていることに対する反応が違うので、参加者の能力に応じて、エクササイズの内容や難易度を調整することが肝要であると思われる。

### 5-2-5、エクササイズに関する参加者の自己評価

振り返りシートから得たエクササイズに関する参加者の自己評価を以下の<表11>にまとめて示す。

<表11> 「エクササイズに関する自己評価」 カテゴリー (n=9)

番号	データ	所属	属性	ラベル
09(1)	「男らしさ」「女らしさ」について日頃からよく考えないので、ペアで話す時になかなか自分の考えが出てこなかった。	日文・4年	女・20代	考える力の欠如
10(1)	テーマが少し難しいということもあって、ディスカッションをしても、あまり明確な答えが出ず、スッキリしないまま終わってしまいました。	日文・4年	女・20代	スッキリしない

17(2)	両方にとって大切な資質は、人として大切なものと同意だと思ったので、意見がたくさんでたように思います。	中文・2年	女・10代	意見が多くでた
39(1)	二人でシェアリングするときに、私が後で話す順番だったので、となりの方がおっしゃっていないことを言わなくてはいけなかったのです。それがちょっと大変でした。	聴講生	女(韓)・10代	大変だと思う理由
45(2)	自分の中の男性の理想像や女性の理想像について話すときは積極的にできたと感じました。	人研・M1	女(中)・20代	積極的にできた
46(2)	それに、提示の言葉もあるから、以前よりうまくできたような感じがします。	人研・M1	女(中)・20代	少し進歩した
51(1)	男らしさと女らしさの定義について、いろいろと話したいですけど、自分が言った言葉は窮屈だと思います。	聴講生	女(中)・20代	言った言葉が窮屈
54(2)	でも、一つよくないところがあります。二人はディスカッションしているのに、ディスカッションとは見えないです。まだ一人が問題を出し、もう一人は答えるという形で討論します。	聴講生	女(中)・20代	ディスカッションではなかった
43(1)	「男らしさ、女らしさって何かに」というテーマを基にして、もっと細かい面の問題を出されていたので、答えにくさを感じました。	人研・M1	女(中)・20代	答えにくいと感じた
48(2)	相手は男で、男らしさと女らしさをディスカッションして、立場が明らかに検討できました。	研究生	女(中)・20代	立場を明らかにして検討できた

<表11>に示した通り、「エクササイズに関する参加者の自己評価」が11件得られた。09(1)「自分の考えが出てこなかった」10(1)「あまり明確な答えが出ず、スッキリしない」51(1)「言った言葉は窮屈だ」54(2)「ディスカッションとは見えない」というマイナス評価が述べられた一方、17(2)「意見がたくさんでた」45(2)「積極的にできた」46(2)「前よりうまくできた」などのプラス評価も得られた。また、SGEはクイズとは違って「明確な答え」を期待するものではない。

SGEは体験学習であるため、参加者がお互いに学びあうことができる。ディスカッションがよくできた参加者は、よくできなかった参加者のモデルになるという役割を果たしていると考えられる。また、ディスカッションがよくできなかった参加者は、エクササイズに参加することによって、よくできた参加者を見て、自己反省をし、自己の行動を変容させることができると考える。

#### 5-2-6、時間について

振り返りシートから得た時間に関する記述を以下の<表12>にまとめる。

<表12> 「時間」 カテゴリー

(n=6)

番号	データ	所属	属性	ラベル
21(2)	また、交流する内容がにっていたので、全部を5分ぐらいで話し合うとゆとりが持てたと思います。	日文・3年	女・20代	ゆとりが持てた
31(1)	考える時間が少し長すぎるように感じた。	言情・3年	女・20代	時間が長すぎ
51(2)	時間もぎりぎりし、何とか、言いたい言葉が出てこないという感じもあります。	聴講生	女(中)・20代	時間がぎりぎり
58(1)	やはり「男らしさ」「女らしさ」というテーマは少し広すぎると思いますが、ディスカッション時間が以前より長くなっても、相変わらず足りないような感じがあります。	聴講生	男(中)・20代	時間が足りない
55(1)	今度は時間制限を注意しましたので、時間の把握ができました。	聴講生	女(中)・20代	時間の把握ができた
54(1)	今日の感じたことは、私はまだ自分の考えを制限時間内で流暢に、筋道を立てて話すことができませんが、以前と比べて、ちょっと進歩があります。	聴講生	女(中)・20代	少し進歩した

<表12>に示した通り、時間に関する記述が6件得られた。上記のように、時間が長ったり、足りなかつたり感じる参加者もいたし、「ゆとりが持てた」「時間の把握ができた」と感じる参加者もいた。

「時間は金なり」と言われている現代社会では、時間意識を身につけなければならない。深見(2011)は「ミーティング、クライアントとの商談、企画のプレゼンテーション等、いずれの場面でも延々と話をするだけでなく、限られた時間内で話をまとめなければならない」と述べている。SGEは時間という要素を構成するので、限られている時間内の話す力を向上させるために役立つと思われる。

#### 5-2-7、要約について

振り返りシートから得た要約に関する記述を以下の<表13>にまとめる。

<表13> 「要約」 カテゴリー

(n=16)

番号	データ	所属	属性	ラベル
18(4)	2人でディスカッションをして、内容を分かっているのに、2人で要約するのは、内容の繰り返しになってしまつて、上手くないかなかつた。	言情・2年	女・10代	うまくできなかった
02(2)	要約の時、時間が余り、反省しました。	中文・2年	女・10代	時間余つた

24(2)	ペアの人が1分で話すのを聞いて、「時間が短い」と意識していたにも関わらず、時間内で話せませんでした。	日文・4年	女・20代	時間不足
21(1)	1分間での交流というのは、あっという間で、相手の方の話が途中で終わってしまったり、自分が話す時にはあせってしまったりした。	日文・3年	女・20代	時間不足
24(1)	10分間で話し合い、まとめた感想を1分で話すことは難しいです。	日文・4年	女・20代	難しい
26(1)	10分間で話し合ったことを1分間に要約するのが難しかった。	日文・2年	女・10代	難しい
26(2)	10分間でたくさんの意見が出たので、まとめづらかった。	日文・2年	女・10代	難しい
33(1)	10分間で話し合ったことを1分間にまとめるのは難しかったです。	中文・4年	女・20代	難しい
16(2)	これは、時間が短いのか、要約能力がないのか、分かりませんが、短くまとめる、ということの難しさを知りました。	日文・3年	女・20代	難しい
16(1)	10分という制限時間の中で沢山意見が出たのに対し、まとめの会話が1分しかなく、2人とも制限時間にまとめることが出来ませんでした。	日文・3年	女・20代	難しい
34(1)	簡潔にまとめるのはやっぱり難しいです。	聴講生	女(中)・20代	難しい
32(2)	自分の考えを短くまとめて、うまく話すことは難しい。	工学部・1年	男(中)・20代	難しい
42(2)	質問(1)～(3)の内容が細かくて関連性もあまりないので、いちいちまとめるのは難しく感じました。	人研・M2	女(中)・20代	難しい
42(1)	1分間で要約する時、時間が足りなかったです。	人研・M2	女(中)・20代	時間が足りない
38(1)	十分間で話したことを一分間にまとめるのには、まとめ能力や記憶力などが必要だと思います。	研究生	女(中)・20代	要約力と記憶力が必要
24(3)	つまり、私には要約する力がまだ足りないのだと分かりました。	日文・4年	女・20代	要約力不足

<表13>に示した通り、要約に関する記述が16件得られた。その中のほとんどは10分間ディスカッションし合ったものを1分間にまとめるのが難しい、1分間が短いので要約するのが難しいというような時間に関わる記述である。

深見(2011)は「実際に『1年や2年かけて考えてきたことを、30分のプレゼンテーションで伝えられるかどうかがビジネスコミュニケーションだ』といった社会人の声を聞いたこともある」と述べている。10分間ディスカッションした内容を1分間にまとめるのは、まだ入門段階のトレーニングだと思われる。

NHKの『カーネーション』も一回15分のドラマの内容を1分以内に要約して、1週間分（約90分）をわずか5分のダイジェスト版として放送している。

また、田島（2004）は「SGEでは、『自分の苦手なものに取り組み』というときがある。これは、苦手なことに取り組むほど、自分を考えるきっかけになるからである」と述べている。本エクササイズに参加することによって、参加者は自分の制限時間内での要約力の不足に気づき、それを改善するステップに繋がると考えられる。

#### 5-2-8、気づき・発見について

振り返りシートから得た「気づき・発見」に関する記述を以下の〈表14〉にまとめる。

〈表14〉「気づき・発見」 カテゴリー (n=8)

番号	データ	所属	属性	ラベル
01(1)	私達は知らず知らずのうちに世界一般のステレオタイプのようなものや、幼い頃に親から言われたことの影響を受けてしまっていることが分かりました。	日文・2年	女・20代	固定観念に影響されている
44(2)	「らしさ」というのは普段抽象的な概念として捉えているので、いざ言葉にすると難しく思いました。	人研・M1	男・20代	「らしさ」を語るのが難しい
56(2)	留学生の方をお相手にしていると、言葉の選び方に少し気を遣いますね。今さらですが、通じると思った言葉が通じなかったり、はたまたその逆があったりと。	日文・4年	男・20代	留学生への言葉の気遣いについて
57(3)	「女々しい」ということばを知らない留学生がほとんどで驚きました。「雄々しい」なら知っているのでしょうか。	日文・3年	女・20代	他者発見
50(2)	今日の討論を通じて、みんなの「男らしさ」と「女らしさ」についての意見や感想が分かりました。	聴講生	女(中)・20代	他者発見・理解
38(2)	今回のディスカッションのテーマに対して感じたことは、社会地位などにやはり差があるということに気づいた。	研究生	女(中)・20代	社会的な地位に差がある
32(1)	個人の資質を表す言葉が多い。	工学部・1年	男(中)・20代	資質を表す言葉が多い
47(1)	やっぱり外国語で討論をするのって難しいと感じました。	聴講生	男(韓)・20代	外国語での会話が難しい

〈表14〉に示した通り、「気づき・発見」に関する自由記述が8件得られた。01(1)、47(1)は自己発見に関する記述であることに対し、44(2)、56(2)、57(3)、50(2)、38(2)、32(1)は他者や他の物事への気づき・発見に関する記述である。

朝倉（2004）は「SGEには、この気づき・発見を促す教育分析的機能がある。教育分析とは、自らの思考・感情・行動のパターンや意味、原因を洞察することである」と述べている。また、片野（2004）は「ふれあいと自他発見は、結果として参加メンバーの行動変容につながる。ここでいう行動変容とは、①ある特定の感情へのとらわれや、②ある特定の思考へのとらわれ、③ある特定の行動へのとらわれから脱却するという意味である」と述べている。

参加者は自分・他者・他の物事に関する気づきや発見によって、自分自身のことを改めて考え、自分自身がイラショナル・ビリーフにはまらないことができると考えられる。

## 6、カテゴリーの分類と考察

### 6-1、カテゴリーの分類

自由記述から得られたカテゴリーについて、「ディスカッションの内容に関するカテゴリー」と「エクササイズ自体に関するカテゴリー」に分類した。カテゴリーの分類を以下の<表15>に示す。【 】はカテゴリー名を表す。

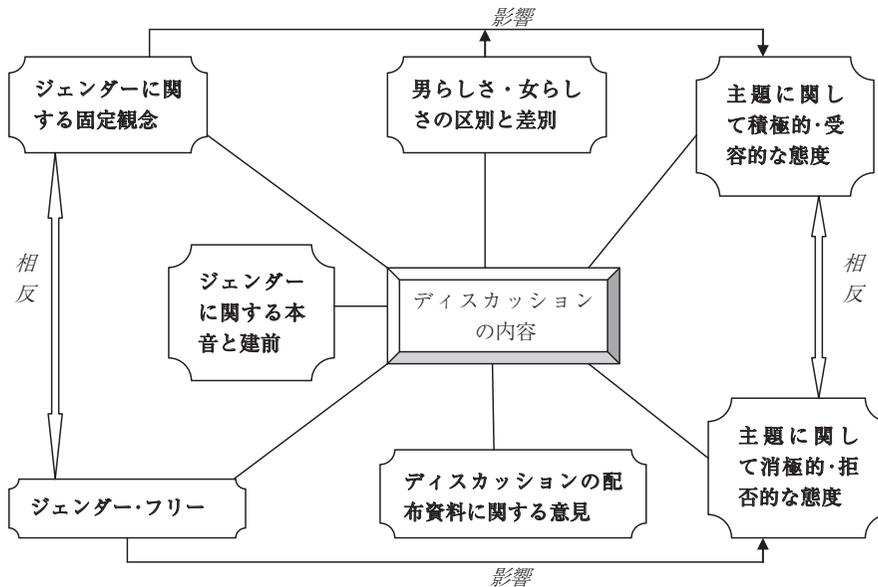
<表15> 「カテゴリーの分類」

ディスカッションの内容に関するカテゴリー	エクササイズ自体に関するカテゴリー
【主題に関して積極的・受容的な態度】【主題に関して消極的・拒否的な態度】【ジェンダーに関する固定観念】【男らしさ・女らしさの区別と差別】【ジェンダー・フリー】【ジェンダーに関する本音と建前】【ディスカッションの配布資料に関する意見】	【エクササイズ全体への肯定評価】【エクササイズへのアドバイス・意見】【エクササイズに関する参加者の自己評価】【時間】【要約】【気づき・発見】

### 6-2、カテゴリーの考察

#### 6-2-1、ディスカッションの内容に関するカテゴリーの考察

ディスカッションの内容に関するカテゴリーの関連を次頁の<図1>に示して考察する。以下の図について、太字はカテゴリー名を表し、斜体はカテゴリーの関係を表す。



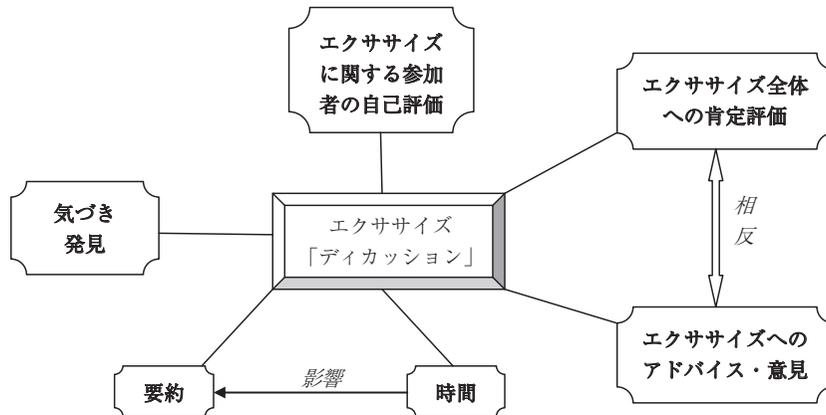
＜図1＞ 「ディスカッションの内容に関するカテゴリーの関連図」

＜図1＞に示した通り、「男らしさ・女らしさってなあに？」というディスカッションの主題について、積極的・受容的な態度を持つ参加者がいた一方、消極的・拒否的な態度を持つ参加者もいた。「主題に積極的・受容的な態度」を持つ参加者は「ジェンダーに関する固定観念」または男女を区別か差別する意見を持っていると考えられる。

一方、主題に拒否的な態度を持つ参加者は強烈な「ジェンダー・フリー」観念を持ち、男女の差を考えることに違和感を覚えると思われる。しかし、「男らしさ・女らしさ」を考えたり、語ったりすることが男女を差別することだというビリーフを持っている参加者はジェンダー・フリーの理念と内容に誤解があると思われる。

### 6-2-2、エクササイズ自体に関するカテゴリーの考察

エクササイズ自体に関するカテゴリーの関連を以下の＜図2＞に示して考察する。以下の図について、太字はカテゴリー名を表し、斜体はカテゴリーの関係を表す。



＜図2＞ 「エクササイズ自体に関するカテゴリーの関連図」

＜図2＞に示した通り、エクササイズ「ディスカッション」に関し、「肯定評価」が得られた一方、「アドバイス・意見」も得られた。参加者それぞれのニーズ（needs）が異なるので、同じエクササイズに参加して、満足している人もいるし、不満を感じる人もいると思われる。不満を減らすための方法として、ディスカッションのテーマを複数にして、参加者の選択にゆだねることが考えられる。

また、要約項目に対する制限時間の影響が見られた。要約項目は大部分の参加者にとって難関であり、特に制限時間がある上、より一層参加者の要約力を求められる。しかし、練習を重ねることによって、参加者が制限時間に慣れ、要約する力をつけることができると思われる。

## 7、まとめと今後の課題

本研究では、質的研究方法の一つであるグラウンデッド・セオリーを用いて参加者の振り返りシートにおける自由記述を基に、参加者のジェンダーに関する価値観及びエンカウンターが取り入れられた授業の実像について分析した。

本エクササイズの主題について、「男らしさ・女らしさというのは、現代社会においてディスカッションしにくい内容だ」という消極的・拒否的な態度を持つ参加者がいた一方、「身近な話題で、会話が進みやすい」という積極的・受容的な態度を持つ参加者もいた。主題に消極的・拒否的な態度を持つ参加者の記述の中に「男らしさ、女らしさということについて話すだけで『差別』と言われる」という意見が見られた。これはその参加者のビリーフだと思われる。規範としての「男らしさ・女らしさ」、即ち他人に押し付けようとする「男らしさ・女らしさ」は社会からとり除かれるべきだが、「個々人がそれぞれの生き方を選んだ＜結果＞として残る男らしさや女らしさ」を考

えたり討議したりすることは別に悪いことではないと考える。

主題に関する参加者の記述から、固定観念に影響されて、ジェンダー観念を持っている参加者もいたし、ジェンダー・フリー観念を持つ参加者もいたことが分かった。異質な考え方や文化背景などを持つ参加者がSGEを通して、自他発見・自他理解したり、自分のビリーフに気づき、修正したりすることができると思われる。

また、参加者から「もっと広い空間なら、社会的な自分として男女差別はいけないという」タテマエしか出せないが、構成された「狭い空間なら少くくは本音が出せる」というような意見が得られた。本音とホンネの交流が主眼とされるSGEでは、参加者が本音を主張しやすいしつけづくりが必要であると思われる。

エクササイズ自体について、「制限時間」と「要約」に苦手意識を持つ参加者がいたことが分かった。それに、ペアで10分間ディスカッションした内容を1分にまとめるといふ要約の項目を同じペアで行なうと、ペア同士が同じ話を繰り返すことになる可能性があるので、ペアを変えて要約項目を行った方がいいという参加者からのアドバイスがあった。これは確かに本エクササイズの改善すべき点だと思われる。

本エクササイズのねらいは制限時間内の話す力・要約力の向上であるが、このねらいに関する記述より、ジェンダー問題に関する参加者の記述がかなり多く出現した。しかし、これも参加者が積極的に自己主張をしたことの現われだと解釈できる。

SGEが取り入れられる授業は参加体験型の授業であり、こういう授業形式で参加者の話す機会が増えると、参加者の話す力を向上させることができると考えられる。今後は「ロールプレイ」といふエクササイズを取り上げ、「制限時間」と「要約」に重点を置き、話すことに関するSGEの実践研究をさらに進めていきたい。

<注>

(1) 「性別特性役割論は、文字通り、男女の性差や性役割を強調します。シンボリックに言えは、男性は経済活動や政治活動に、女性は家庭内の活動にという役割分担」である。(加藤2006参照)

(2) 差異派フェミニズムに等しい。「差異派フェミニズムといふのは、男性と女性の間の根本的な同一性を何らかのかたちで強調する、それまでの平等派フェミニズムとは異なり、男性と女性が存在論的にまったく異なる存在であることを強調するフェミニズムの一分派である」(ウィキペディアフリー百科事典参照)。

#### 【参考文献】

朝倉一隆(2004)「エンカウンターを自分自身に生かす」國分康孝・國分久子総編集『構

- 成的グループエンカウンター事典』図書文化社
- 江原由美子・山田昌弘 (2008) 『ジェンダーの社会学入門』岩波書店
- 大関健道 (1999) 「男らしい・女らしいってなあに？」『エンカウンターで学級が変わる・中学校編Part3』図書文化社
- 大関健道 (2000) 「人権教育の方法としての構成的グループ・エンカウンター」國分康孝編『続構成的グループ・エンカウンター』誠信書房 pp.229-236
- 片野智治 (2004) 「構成的グループエンカウターの背景となる理論『折衷主義』」國分康孝・國分久子総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社
- 加藤秀一 (2006) 『ジェンダー入門』朝日新聞社
- 黄潔 (2012) 「話すことに関する構成的グループ・エンカウターの実践～日本人中心の授業と留学生中心の授業との比較研究～」『山口国文』第35号、山口大学人文学部国語国文学会 pp.93-106
- 戈木クレイグヒル滋子 (2006) 『グラウンデッド・セオリー・アプローチ 理論を生み出すまで』新曜社
- 佐々木瑞枝 (2009) 『日本語ジェンダー辞典』東京堂出版
- 田島聡 (2004) 「エンカウンターを支えるカウンセリングの理論」國分康孝・國分久子総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社
- 林伸一 (1999) 「断定的一般論の文章記述の書き換え」『山口国文』第22号、山口大学人文学部国語国文学会 pp.67-79
- 林伸一 (2002) 「思い込み文への遡行とストラテジー研究—論理療法と日本語教育の接点—」『山口国文』第25号、山口大学人文学部国語国文学会 pp.49-69
- 林伸一 (2011) 「教育カウンセラー養成のための構成的グループ・エンカウンター」『山口大学文学会志』第61巻、山口大学文学会 pp.1-24
- 深見知南 (2011) 「制限時間内の発表力向上のためのエクササイズ —大学生対象の構成的グループ・エンカウターの実践研究」『山口国文』第34号、山口大学人文学部国語国文学会 pp.42-56
- 福富護 (1985) 『「らしさ」の心理学』講談社
- 福富護 (2001) 「ジェンダー・バイアス」國分康孝監修『現代カウンセリング事典』金子書房 p.291
- 藤井 (2010) 「女性誌における『ダイエット』のあつかい」『現代日本語文化論』第3号、現代日本語文化研究会 pp.56-80
- 別所靖子 (2004) 「構成的グループエンカウターの手法」國分康孝・國分久子総編集『構成的グループエンカウンター事典』図書文化社 p.24

渡辺あや・豊田美加（2011）『NHK連続テレビ小説 カーネーション上』NHK出版

**【参考サイト】**

「男女共同参画基本計画（第2次）概要」

[http:// www.gender.go.jp/kihon-keikaku/2nd/gaiyou.pdf](http://www.gender.go.jp/kihon-keikaku/2nd/gaiyou.pdf)

「ウィキペディアフリー百科事典:差異派フェミニズム」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

別添資料 1

エクササイズ③「ディスカッション」振り返りシート

20( )年( )月( )日

氏名 [ ]・国籍 [ ]・出身地 [ ]・性別 [ 男・女 ]  
[ ] 学部・[ ] 学科・[ ] コース・[ ] 年・その他 [ ]  
年齢 [ 10代・20代・30代・40代・50代・60代以上 ]

\* (留学生のみ) 日本滞在年数 [ 年 ヶ月 ]・日本語の学習暦 [ 年 ヶ月 ]・日本語能力試験 [ ] 級に合格

◎ 次の各項目に関してあてはまる番号を下の5～1の中から選んで○を付けてください。

【5 (よくあてはまる) 4 (あてはまる) 3 (どちらとも言えない) 2 (あてはまらない)

1 (まったくあてはまらない)】

① 本エクササイズは自分の話す力を上達させることに役立った。

[ 5 4 3 2 1 ]

② 積極的に話すことができた。

[ 5 4 3 2 1 ]

③ 自信を持って話すことができた。

[ 5 4 3 2 1 ]

④ 簡潔に話を要約することができた。

[ 5 4 3 2 1 ]

⑤ 制限時間内で、伝えたいことが伝えられた。

[ 5 4 3 2 1 ]

⑥ 筋道を立てて話すことができた。

[ 5 4 3 2 1 ]

⑦ 状況に応じて臨機応変に話すことができた。

[ 5 4 3 2 1 ]

⑧ 自分なりに工夫して話したところがあった。

[ 5 4 3 2 1 ]

⑨ 楽しんでエクササイズに参加できた。

[ 5 4 3 2 1 ]

◎ 感じたことや気づいたことをお書きください。

ご協力ありがとうございました。

別添資料2

エクササイズ③「ディスカッション」ワークシート

質問 (1) ~ (4) をペアでディスカッションしながら記入してください。(質問2、3については下の「個人の資質一覧表」を参考にしてもいいです。)

- (1) 私が考える「男らしさ」「女らしさ」とは？
- (2) 男性・女性にとって、それぞれ大切な資質は何だろうか？
- (3) 男性・女性の両方にとって大切な資質は何だろうか？
- (4) (1)~(3) の回答を比べて、違っているところ、似ているところはどんなところであるか？また、(1)~(3) を比較して、気づいたことはどんなことであるか？

【個人の資質一覧表】

冷静な	誠実な	ユーモアのある	優しい	理性的
公平な	敏感な	勇敢な	個性的な	暖かい
静かな	まじめな	親切な	明るい	積極的
思いやりがある	エネルギッシュな	謙虚な	活発な	社交的な
注意深い	心が広い	正直な	愛想のよい	頼りになる
強い	リーダーシップがとれる	自己主張できる	子供が好き	気取らない
素直な	美しい	意志が強い	決断力がある	夢を持っている
身体がカッコいい	スポーツマンである	頭がよい	文字がきれいな	料理がうまい

参考文献

大関健道 (1999) 「男らしい・女らしいってなあに？」『エンカウンターで学級が変わる・中学校編 Part3』 図書文化